

集めなどを強く進めることだった。吉池事務局の活躍である。部長会が連続開催され、環2と阪神高速道路の現地調査や南区星崎地区での2号線騒音公開テスト参加、市民会議のデモ参加、加藤光治西山学区政協力委員長との懇談などが相ついだ。風船揚げ調査の中間まとめも発表され、予想どおり、排ガスの滞留や逆転層の存在が実証され始めた。初夏には藤巻町を空中から撮影、この写真を添えて石原環境庁長官はじめ関係当局へ「緑を守れ、環境を破壊するな」の要望書を提出、本山市長、篠塚副知事とも会幹部が会談した。写真は山田委員長自らが撮影。

野鳥調査も会をあげて精力的に行われ、地元西里町の加藤光之自治会長、名東区長加藤国一氏との懇談も行われた。そして堀田一円上間の2号線着工阻止行動参加もした。

これより先の早春、東山公園線道路ワキ（藤巻町の西、緑橋近く）に市の気象観測機器が設置されていることを会員が発見「計画決定が留保されているのに市は内々準備を進めている」と、改めて運動推進を誓い合ったものである。

第五回総会が行われたのは十月十六日。風船揚げ、野鳥調査をはじめ諸活動が報告され、新役員として会長、委員長は早川、山田両氏留任のまま、副委員長の長村氏と新し

い六部長が承認された。交渉部を渉外部と改名。全体にやや簡素化された体制となった。席上、筒井県議が「土地区画整理組合地内にはインター、学校もできる予定なので共同歩調を」本谷市議が「オリンピック誘致の話があるので建設促進に拍車がかかるかも」とそれぞれあいさつされた。田中代議士からも激励電報が届いた。

十一月には筒井県議と懇談。「広域活動の必要と代案用意」の助言を受け、暮れには市計画局、東山ルート（1号線東部）の沿線各団体と話し合いを持った。渡辺市議との懇談では「学区の問題となるよう運動の展開を」との助言を得た。

新役員体制となった直後のアンケート調査では、88%が反対（賛成1・4%）運動継続が78%（必要なしは1・1%）で、運動方針でもある不偏不党、外部地域・団体との連帯強化、陳情運動推進、公害の調査活動続行、マスコミへの訴えかけ促進などが大きく支持された。



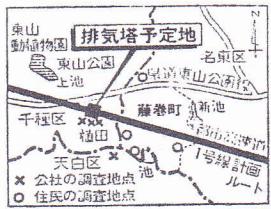
招く滞留のガス 地下式高速道の排気塔

大気中に逆転層

名東区の住民団体 風船調査で確認

地下式高速道の排気塔が出来れば、そこから出る排ガスが気流に乗って降下、滞留し住民に大きな影響を及ぼす。名古屋市長区藤巻町の住民組織する「静かな環境を守り高速度道路に反対する会」(会長・早川丈夫長教団)は、一年間にわたって、ヘリウム風船を飛ばし独自の気流調査を行い、このように見解をまとめた。排気塔からの排ガスの影響予想調査は名古屋高速道路公社の手でも進められているが、行政側の調査に先行する住民調査の結果は保留されている高速度1号線のルート決定に波紋を起した。

1号線ルート決定に波紋?



藤巻町地区を走る高速度1号線計画は天付近からトンネル構造で環状路線へ進むことになり、いったん計画の縦断まで行われたが、昨年六月に留保となったまま。この留保は、建設中止ではないとして完全撤廃を要求する「反対する会」の後も住民運動を続けてきた。

合、トンネル内の排ガスを強制換気する排気塔が同町近に建設されること問題となった。藤巻町地区は丘陵地帯の南側谷間に住宅が広がっており、地形的に大気の逆転層が出来やすいといわれ、これがあるところでは排ガスの入れ替わりがほとんど行われないうえ、排ガスが町を覆う可能性があるといふ。

調査結果によると、九月末まで三十八回の調査で延べ四十個の風船を飛ばしたところ、その半数に当たる十九回に滞留現象が見られた。滞留した風船は計百三回に上った。これは三月二十日は三千個飛ばしたうち二千個が滞留したといふ。

また、滞留しないまでもいったん上昇した風船が急降下し、同町の上空五、八百メートルを底空飛行して平地の方へ飛んでいくケースもしばしば。調査をした同会の研究部長、森上高行さん(以下「高行」)は谷に向かっで吹き込んだり、よどんでいたり、実に複雑な動きを繰り返していることわかった。このように、普通、逆転層が起きにくいといわれる風の強い日でも風船の滞留が見られたことを重視している。

同会では排気塔からの排ガスは当然これらの気流に乗って拡散すると考えられることから「高速度建設は藤巻町住民に大きな影響を及ぼす」として継続調査を進めるとともに、この結果を反対運動の有力な根拠とする考え。

一方、名古屋高速道路公社でも当初の排気塔建設予定地と天白区植田山の四方所に十六分の鉄塔を建て、二〇四四年の一年間の風向、風速、温度について連続日記録に、その気象調査をしていく。また、近く無害のガスを使って排気塔地点からのガス拡散実験も行い予定。これらのデータ分析は来年度にとめられるが、一足早く出た住民側の調査との比較対照が注目される。

「反対する会」の調査は公社側と調査地点の不一致があり、逆転層の出来やすい夜明け時に集中して行われるなど一定の制約はあっても「たいへん懸念を感ずしてゐるが、森上さんには「仕事や家庭をかかえて常時観測はムリにしても今後データを増やし、道路北側の東山動物園地域への影響なども調べたい」と懸念を感ずしてゐる。

昭和 52 年 10 月 23 日付

昭和52年度の主な活動記録

52・1月

風船揚げ連続実施。環2現地調査。学区民懇

談会で高速道路の公害を説明、市バス誘致を要望。

2月

阪神高速現地調査。風船揚げの成果を中間発表。

3月

風船の大量降下を確認。

4月

加藤西山学区区政協力委員長と会談、協力助言を得る。

5月

藤巻町全景の空中撮影。連帯組織とともに本市市長と会談。

6月

再び本市市長と会談。篠塚県副知事も会談。

石原環境庁長官ら関係機関へ要望書提出。

8月

加藤名東区長と会談。

10月

第五回総会。会長、委員長留任のまま新部長六氏を承認。交渉部を渉外部と改称。

11月

筒井県議と懇談。アンケート実施で運動推進を確認。

12月

東山ルート沿線団体と懇談。市計画局と話し

合い。渡辺市議と懇談、協力の確言を得る。

昭和53年度の活動

新年早々の二十二日、第六回総会を開き、筒井県議、本谷市議の出席を得て、広域広報のための号外発行、陳情と公職者との接触、勉強会、調査・研究などの続行と強化を決めた。そして二月に入り、会員の全員行動で西山学区全体と植田山、東山元町などへ「号外」を配布した。

本市市長への陳情、本谷市議との懇談を進めるうち、二月下旬、突然、高速道路公社から「1号線東部ルートに關連するガス拡散実験（気流調査）を二月二十七日から三月一日まで行いたい」との申し入れがあった。会では渡辺市議の協力も求め、延期を要請しつつ公社申し入れの是非、必要性、問題点、疑問などをたどした。公社は「三月十三日に会への説明会をし、十四、十六日の三日間実験をした」といふ旨、再度申し入れてきた。結局、了承。実施された。「号外」への反響も届き始め、会では意を強くしたが、半面、無関心組のいることもわかって複雑な心境をもらす会員もあった。三月号から藤巻だよりは会報と改称。不在地主を賛助会員とする勧誘も開始。

「高速道の公害」をい

名東区の
反対する会

三種のパンフで訴え

建設中止へキャンペーン

名古屋市高速道路は排ガスを住宅地に流布させ、大きな被害を醸成し出す。各市区町村の住民がつくる「静かな環境を守り高速道路に反対する会」は、高速道路の「恐ろしさ」を訴えるパンフレット四千枚を五日から藤巻町周辺の家庭に配り、高速道路建設中止へ向け、キャンペーンに乗り出す。高速道路の公害をもっと知ってもらいたいのが目的だ。このパンフレットは、昨年開かれた会の部長会で決まった。パンフは本山市長や市議会にも送る予定にしているが、これを機に運動のよりいっそうの盛り上がりをもとめて、と会ではこうしている。

藤巻町(約百五十戸)は東山動物園のすぐそばで、名古屋市高速道路一帯線が通る予定になっている。この一帯線のうち、動物園の南側三・二キロ、千種区錦池通四百一十名東区藤巻町三丁目(主調査を実施した。その結果、三十八回にわたる調査で風船の汚濁が認められたのは十九回にのぼり、住民にショックを与えた。今度のパンフレットは、この自主	開かれた場合、放出された排ガスが上空に滞留するのでは、とこの不安が住民に高まった。そこで、会では一昨年十月から昨年十月にかけて、風船を使った自主調査を実施した。その結果、三十八回にわたる調査で風船の汚濁が認められたのは十九回にのぼり、住民にショックを与えた。今度のパンフレットは、この自主	調査などかちどくなったという。具体的に決まったのは会の調査部長、研究部長らが集まって昨年末開かれた部長会。	考え見せ、市の計画を容認させまいと「パンフにはどんな文字が並ぶ。三千万円ほどか、五千部作った。
--	--	---	---

昭和53年2月5日付

名東地域公害審査会長の富田名大名誉教授(代万町)との懇談、日弁連の「道路公害シンポジウム」への出席も行った。

第七回総会は五月十三日。

筒井県議、本谷市議、河上市議も出席して下さった。その河上市議は翌月開いた懇談会で「三条件八項目を守る。高速道路には党は賛成。環境悪化の対策では当局から納得できる回答のあるよう協力する」と言明した。会では五月下旬、計画局に対し、高速道路公社が行ったガス拡散調査の不当性、不十分さなどを追及、さらに市公害対策局長とも話し合った。

ついで六月、社会党市議団

幹事と会代表が会談、ゆさぶりをかけた。相前後して本山市長からの質問状への回答（役人の作文、あいまいな内容）が届いた。同月、近隣地区へ行ったアンケート調査の結果がまとまったが、回答数が少ないのに頭を痛め、一方で79%の公害が心配、77%の高速道路は好ましくない、協力し運動に参加する―の声に力づけられました。

初秋に会員アンケートして運動の進め方、組織の在り方を問うた。二四九通のうち、より強くやれが五五、従来どおりが一三八、陳情続行一六六、調査と資料整備が一二六などの特徴を見た。会ではさらに再アンケートを試み、会員の会への参加意識を問うた。市開発公社用地課が藤巻町三丁目の新池付近（トンネル出入口とも考えられる場所）で四カ所の土地を買い付けた、一丁目でもあるらしい、との情報が得られたのもこのころ。市の「やる気」が察しられた。

第八回総会は十一月十八日。渡辺市議が「地元のため頑張るから皆さんも」と激励、筒井県議は「風船データは貴重、みんなで調査に参加を」本谷市議は「当局にどんどん疑問点をぶつけましょう」とそれぞれあいさつされた。新役員は早川会長、南川和子新委員長、そして合同会議が新

設されて兵庫善治議長、相原宗之副議長と各スタッフ、それに各部長・副部長が就任した。新幹部は計画局を訪れ、気流調査の結果発表の遅れなどを追及、これに対し公社と計画局は十二月二十三日、やっと説明会を開いた。会側から「三日間だけの調査では不十分、風の強い日のデータはダメ、全資料を提供しないのは不誠意」などと抗議、要望した。

昭和53年度の主な活動記録

53・1月 第六回総会。広域広報の「号外」発行など決める。

2月 全員行動で西山学区、植田山、東山元町などへ「号外」配布。

本市市長へ陳情。質問状も提出。

ガス拡散実験（気流調査）の申し入れが高速道路公社からあり一応断わる。「三月中旬、説明会の後、三日間実験」の再申し入れに条件付き受諾。

本谷市議と懇談。

3月 十三日説明会、十四～十六日、公社が気流調

査実験を実施。

5月 第七回総会。公社実験で計画局を追及、市公害対策局長とも初会談。

6月 河上市議と懇談。社会党市議団幹部とも会談。近隣地区民への高速道路問題アンケート実施。本山市長から質問状への回答届く。

8月 青山名市大教授を招き女性向け勉強会。

9月 会員への運動・組織についてのアンケート。さらに参加意識調査で再アンケート。

11月 第八回総会。早川会長留任、南川新委員長と合同会議・スタッフ制、各部体制発足。

12月 公社、計画局による気流調査実験の説明会開く。

昭和54年度の活動

公社、計画局の気流調査実験の波紋は大きく、会から全資料の提出申し入れや、特別研究部会（研究部とは別に）の設置、合同会議の「東山地区三換気所（トンネル案には三カ所の排気塔設置が伴う）環境影響調査」の勉強会などが相ついだ。研究部による風船調査の過去三年間のまとめ

も行われ、56%が滞留、強風下でも滞留あり、月間二〜三回危険な日が発生、などの恐るべきデータが出た。市と会による気流調査勉強会では、市側の役所的あいまい答弁が続出、会員を怒らせもした。

初夏に入って渡辺市議との懇談会では「積極的に運動し決して弱めてはならない。私も協力する。学区民にも働きかけを」と励まされ、ついで法律勉強会も開いた。本谷市議、増田市議とも続いて懇談したが増田氏は「党は別として個人的にはルート反対」と言明した。反対看板の修理と新しい看板十枚の町内各所への設置も行われた。休む間もなく、名大の島津先生を囲む勉強会、さらには市議会建設環境委員会所属の共産、自民、民社各党議員への陳情、筒井県議、河上前市議との懇談などが夏のさ中に行われた。また、調査完了に伴って、不在地主の皆さんへの案内状三百通が発送され、協力と理解を求めた。

八月末「名古屋市基本計画素案を考える名東区民の集い」が市主催で開かれたが、席上、市の緑化推進政策、景観保全の考えと自動車交通促進の道路計画との矛盾を会から鋭くついた。ここで注目されるのは、名東区選出の各議員が連名で1号線東部ルート（藤巻通過計画）の見直しを求め